

事業番号	13 01 01	事業改善シート(令和3年度実施事業分)			□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検
事業名	電気事業	部局	企業局	課・室	電気事業課
		実施期間	S33 ~	E-mail	kigyo@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	⑧再生可能エネルギー100%地域をめざし自給率を上昇				
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進 3-1 信州と関わりを持つ「つながり人口」の拡大 4-5 地球環境への貢献 2-2 地域内経済循環の促進 4-1 県土の強靱化				



1 事業の概要

事業の現状・ 目指す姿 (予算編成時) 及び実施内容	【現状】 再生可能エネルギーの供給を拡大するために、新規発電所の建設及び電力量の増加を視野に入れた既設発電所の改修を推進することが必要
	【目指す姿】 『脱炭素社会に向け、長野県の豊かな水資源を活かす水力発電により、「再生可能エネルギーの供給拡大」と「エネルギー自立分散型で災害に強い地域づくり」の具現化を図るとともに、電力の安定供給のため、未来に向けて積極的に投資』 ・新しい発電所の建設と基幹発電所の改修等に取り組み再生可能エネルギーの供給を拡大 ・スマート保安の推進とともに地域連携水力発電マイクログリッド構築等による大規模災害時の電力供給 ・企業局電力のブランド化による電力の地消地産と大都市圏との連携の推進、これからの売電のあり方を検討 ・先端技術等を活用して地域課題の解決を図る、企業局の発電所立地市町村の取組を支援 ・利益の水力発電供給拡大への投資と一般会計繰出による「地方創生」や「子どもの未来」への支援 など
	【実施内容】 ・再生可能エネルギーの供給拡大 ・一般会計への繰出しによる地域貢献 ・再生可能エネルギーの実証モデル事業 など

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし、—:数値なし]									
No	成果指標	単位	R1年度	R2年度	推移	R3年度	推移	R3年度目標値	達成状況
1	経常収支比率	%	149.6	134.0	↓	126.2	↓	113.4	達成
2	損益	千円	1,350,026.0	906,598	↓	738,004	↓	432,606	達成
3	企業局の電力量で賄える 県内世帯数の割合	%	12.6	12.7	↑	13.2	↑	13.2	達成
4	総発電所数	か所	16	17	↑	23	↑	23	達成
5	大規模改修を行う発電所数	か所	2	6 (工事着手)	↑	2 (完成)	—	2 (完成)	達成
6	自立運転可能な発電所立地 市町村	市町村	2	4	↑	5	↑	6	未達成

区分(単位:千円)	R1年度	R2年度	R3年度
	前年度繰越額	219,340	1,382,212
当初予算額	7,423,575	7,717,547	10,259,986
補正予算額	62,941	44,987	18,723
合計(A)	7,705,856	9,144,746	10,795,877
うち一般財源	0	0	0
決算額(B)	6,052,582	7,521,472	7,540,314
職員数(人)	57	59	57

成果指標及び目標値の設定理由	1.「長野県公営企業経営戦略」(平成28年2月策定、令和2年度改定)に基づく指標。財政計画に基づき経常収支比率100%以上を維持し利益を確保 2.「長野県公営企業経営戦略」(平成28年2月策定、令和2年度改定)に基づく指標。財政計画に基づき経常収支比率100%以上を維持し利益を確保 3.新しい発電所の建設や既設発電所の出力増強による、再生可能エネルギーの更なる普及・拡大 4.新しい発電所の建設や既設発電所の出力増強による、再生可能エネルギーの更なる普及・拡大 5.新しい発電所の建設や既設発電所の出力増強による、再生可能エネルギーの更なる普及・拡大 6.災害時等に地域へ電力供給ができるように施設を整備
達成状況の分析	1.基幹発電所の大規模改修工事等により電力料収入が減少したが、経常収支比率、損益共に目標を達成した。 2.基幹発電所の大規模改修工事等により電力料収入が減少したが、経常収支比率、損益共に目標を達成した。 3.建設部からの移管発電所(奈良井、松川ダム、豊丘ダム)及び大規模改修により出力増強した裾花発電所により発電電力量が約3,380世帯分増加した。 4.新規発電所(くだもの里まつかわ、信州もみじ湖、小洪えんまん)及び移管発電所(奈良井、松川ダム、豊丘ダム)の運転開始により目標を達成した。 5.西天竜発電所及び裾花発電所の大規模改修工事が完了し、目標を達成した。 6.部材不足等により工事が遅延し目標未達となった。

主な取組	✓ 再生可能エネルギーの供給拡大 ・新しい水力発電所の建設 6か所(設計中) ・調査中の候補地点 7か所 ・大規模改修等 5か所(美和、春近、小洪第3、与田切、豊丘ダム)	 
	✓ 電気事業利益を活用した地域貢献 ・地方創生の取組に対し、一般会計へ繰出し ・発電所立地市町村の先端技術を活用した行政サービス高度化等を交付金により支援(2市町)	
	✓ 再生可能エネルギーの実証モデル事業 ・100%再生可能エネルギー由来の水素ステーションによる新たな事業可能性の検証 (CO2フリーゲーム等にFCV・外部給電器を活用)	

2 今後の事業の方向性

	課題等	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	発電所の平均的な償却年数(建設から40年)を経過する発電所が8箇所あることから、計画的な老朽化対策が必要。また、再生可能エネルギーの供給拡大のための新規電源開発を積極的に進め、固定価格買取制度の適用による経営の安定化に取り組む必要がある。	改修期間中の減収等を考慮し、既設発電所の改修を計画的に行う。同時に新規電源開発の可能性を調査し、経済性が確認された地点について建設を進める。生み出された利益の一部を活用し、引き続き積極的に地域貢献に取り組む。